

微生物研究 — 大学での研究を振り返って —

大学院医学系研究科教授 山本 容正

大学で微生物研究を始めて40年以上になります。その間、学生には次のことを常々語ってきました。研究に重要なものは創造と発見の喜びであり、先人の成果から我々が如何に恩恵を受けているかを認識することが、これから研究を志す者への大きな動機付けになる、ということです。

自身の研究を振り返ると、初期の頃は病原真菌である *Candida albicans* から初めて糖蛋白毒素を分離し、性状の詳細な解明を行いました。次いで *Legionella pneumophila* の試験管内感染モデルの確立、マクロファージとの相互関係の解明、肺炎クラミジア感染の動脈硬化症への関与など多様な微生物研究を展開し、共同研究者と協力しながら当該領域に貢献してきたと自負しています。大阪大学赴任後は、*Helicobacter pylori* の病原因子遺伝子型と胃癌発生との関係を多面的に研究、両者の関連性を解明してきました。近年では多剤耐性細菌がアジアの発展途上国一般住民に蔓延していることを明らかにし、地球規模での対応が喫緊の課題であると唱えてきました。これらの研究が、今後多くの研究者が行う微生物研究の発展の礎になればと願っております。



やまもと・よしまさ

プロフィール

略歴：昭和46年北里大学衛生学部卒業、東京大学医学部細菌学教室助手、明治薬科大学講師、昭和大学医学部助教授、米国 University of South Florida College of Medicine 准教授を経て平成15年医学系研究科保健学専攻生体情報科学講座教授。専門は、病原細菌学、病原真菌学。

動的文法理論に基づく英文法研究と学習英文法の再構築

大学院言語文化研究科教授 岡田 伸夫

子供に与えられる言語資料は質量ともに十分ではないが、子供は短期間にそれと矛盾しない無数の文法の中から一つの文法を選び、獲得する。文法獲得を説明するには、子供に、一般的な学習メカニズムだけでなく、文法獲得専用のメカニズムや情報があらかじめ備わっていると考えるのが自然である。ここで文法獲得専用のメカニズムや情報というのは、獲得の最終結果である大人の文法にかかわる規定ではなく、ある段階の文法が次の段階の文法に移行する際に起こる変化を絞り込む制約である。このような考え方を動的な文法理論と言うが、この理論は、刺激の貧困の問題を解決するとともに、同じ言語の話者の間に見られる変異や世界の言語の多様性を説明することもできる。近年、動的な文法理論に基づく研究や他の科学的な文法研究により、英文法固有の構文の意味や用法にかかわる多くの事実が発掘され、また、無関係と見なされてきた事実を統一的に説明する原理が発見されつつある。これらの研究成果を取り入れ、伝統的な学習英文法を再構築することが肝要である。再構築された学習英文法の内容に適切な加工を施し、教員や学生に提供すれば英語教育を確実に改善することができる。



おかだ・のぶお

プロフィール

略歴：昭和46年3月東京教育大学文学部卒業。昭和48年3月同大学大学院文学研究科修士課程修了。昭和50年3月同大学大学院文学研究科博士課程退学。同年4月京都教育大学教育学部専任講師。昭和52年4月同大学助教授。平成元年7月同大学教授。平成13年10月本学言語文化学部教授に配置換え。平成17年4月本学大学院言語文化研究科教授に配置換え。主な研究分野は英文法、第1・第2言語獲得、英文法研究の英語教育への応用。大学英語教育学会副会長・理事、日本英語学会理事、日英・英語教育学会会長、Asia TEFL 編集委員、日本学術振興会科学研究費補助金第1段階審査委員、文部科学省現代的教育ニーズ取組選定委員会専門委員、大学評価・学位授与機構大学機関別認証評価委員会専門委員、大学入試センター教科専門委員会委員、神戸大学大学教育推進機構全学共通教育部英語部会外部評価委員、滋賀県立大学国際教育センター外部評価委員等を歴任。

平田オリザ教授「フランスの芸術文化勲章シュヴァリエ」受章

コミュニケーションデザイン・センター、アート部門の平田オリザ教授がフランス文化省から芸術文化勲章シュヴァリエを授与されました。

芸術文化勲章シュヴァリエは、フランス文化省が運用する名誉勲章で、「芸術の領域での創造、もしくはこれらのフランスや世界での普及に傑出した功績のあった人物」に授与されます。

今回の受章は、平田教授のフランスにおける劇作家、演出家として以下に記載する活動に対する評価と、日本におけるフランス文化の紹介への貢献が評価されたものです。

なお、叙勲式は、6月27日(月)在日フランス大使館(東京都港区)で行われました。



平田オリザ教授（左）、フィリップ・フォール駐日フランス大使（右）

上演作品一覧

2000年 仏語版『東京ノート』
プレスト国立演劇センター他で上演
2002年 日本語版『東京ノート』
パリ、エクサンプロバンスなどで上演
2004年～2005年 『S高原から』
ストラスブール国立劇場他で上演
2006年 『ソウル市民』シャイヨー国立劇場他で上演
2007年～2009年 日仏合同作品『別れの唄』

ストラスブール国立劇場他で上演
2009年 『ユートピア』
ブザンソン国立演劇センター他で上演
2010年 『砂と兵隊』ジュヌピリエ国立演劇センターで上演
2010年 リヨン国立高等師範客員教授
2011年 仏語版『銀河鉄道の夜』をサルトルビル国立演劇センターで構成・演出
また、戯曲13本が翻訳され、うち7本が出版されている。

(コミュニケーションデザイン・センター)

長野卓人君「16th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis」最優秀ポスター賞(Award 2011 for best poster presentation)受賞

基礎工学研究科・物質創成専攻・機能物質化学領域・有機金属グループの長野卓人君(博士後期課程2年)が、2011年7月に上海で行われた有機合成を指向した有機金属化学の国際学会「16th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis」において最優秀ポスター賞(Award 2011 for best poster presentation)を受賞しました。この賞はポスター発表者(507件)の中から特に優れた研究結果の発表に授与されたものです。

今回、受賞した長野君の発表のタイトルは“Asymmetric Hydrogenation of N-Heteroaromatic Compounds Catalyzed by Halogen-Bridged Dinuclear Iridium Complexes”であり、光学活性ジホスフィン配位子を有するハロゲン架橋イリジウム二核錯体を触媒前駆体として用いた、含窒素芳香族化合物の高活性かつ高エナンチオ選択的な触媒的不斉水素化反応について発表を行いました。含窒素芳香族化合物の触媒的不斉水素化反応は、医薬品や天然物などに広く含まれる光学活性な環状アミン骨格を合成する手法の中でも、廃棄物を生じることがないという環境調和性に優れた反応であり、反応の制御が容易であるといった理由から工業的

にも有用な反応であります。遷移金属錯体を用いた窒素-炭素二重結合の触媒的不斉水素化反応では、ヨウ素を添加剤として用いると触媒活性とエナンチオ選択性が劇的に向上するということが知られており、この効果について系統的な検討を行うことによって、従来の定説と異なり、塩素が配位子として結合したイリジウム錯体が最も高い活性を示すことを見いだしました。さらに、 ^1H 、 ^{31}P NMR測定などのスペクトル分析を用いて反応中間体の同定を行い、本触媒反応の反応機構について詳細な検討を行った点が高く評価され、今回の受賞へと結びつきました。



賞状をもつ長野卓人君

(基礎工学研究科・基礎工学部)

谷口直之招へい教授「平成23年度日本学士院賞」受賞

産業科学研究所の谷口直之招へい教授（阪大産研一理化学研究所アライアンス・ラボ、阪大名誉教授）が、第101回日本学士院賞を受賞しました。同賞は、明治43年に創設され、学術上特に優れた論文、著書その他の研究業績に対して毎年9名以内に授与されています。今年度の授賞式は、天皇后陛下の行幸啓を仰ぎ、平成23年6月20日に日本学士院で行われました。谷口招へい教授は、糖鎖生物学、とくにN-結合型糖鎖の病気での重要性についての先駆的業績が評価されての受賞となりました。谷口招へい教授は、これまで糖鎖を合成する重要な糖転移酵素の多くを世界に先駆けて一つずつ分離精製し、その性質を明らかにし、その遺伝子を解明することにより、第3の生命鎖である糖鎖の機能と構造変化が癌、慢性閉塞性肺疾患等の病

気の発症機構に関わることを明らかにしました。またこれらの基礎研究から肝臓がんや膵臓がんの診断マーカーへの応用、さらには癌の抗体治療等の応用面への基礎的な貢献をしました。谷口招へい教授は現在引き続き、理化学研究所基幹研究所のシステム糖鎖生物学研究グループ・グループディレクターを本務として研究を継続しています。



(産業科学研究所)

新総長補佐紹介

江川 温 (えがわ あつし)

大学院文学研究科

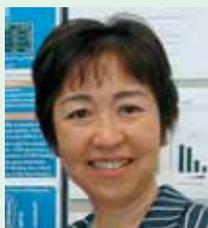


【略歴】

- 昭49. 3 京都大学文学部卒業
- 52. 3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 54. 3 京都大学大学院文学研究科博士課程退学
- 54. 4 大阪大学助手文学部
- 57. 4 大阪大学講師教養部
- 61.12 大阪大学助教授教養部
- 平 2.10 大阪大学助教授文学部
- 8. 1 大阪大学教授文学部
- 11. 4 大阪大学教授大学院文学研究科
- 16. 4 大阪大学大学院文学研究科副研究科長 (平20.3まで)
- 18. 4 大阪大学教育研究評議員 (平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院文学研究科長・文学部長 (平22.3まで)
- 23. 8 大阪大学総長補佐 (教育推進担当)

瀧原 圭子 (たきはら けいこ)

保健センター(大学院医学系研究科循環器内科学 兼任)



【略歴】

- 昭55. 3 長崎大学医学部医学科卒業
- 55. 7 大阪大学医学部附属病院医員 (研修医)
- 56. 7 財団法人日本生命済生会附属日生病院医員
- 61. 3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
- 61. 3 医学博士 (大阪大学)
- 61. 4 大阪通信病院第二内科医師
- 62. 5 トロント大学心臓血管研究センター博士後研究員
- 平 4. 8 大阪大学助手医学部
- 14. 8 大阪大学講師大学院医学系研究科
- 16. 4 大阪大学助教授保健センター
- 17. 4 大阪大学医学部附属病院・歯学部附属病院産業医
- 19. 4 大阪大学准教授保健センター
- 20. 4 大阪大学教授保健センター
- 20. 4 大阪大学保健センター副センター長 (平24.3まで)
- 23. 8 大阪大学総長補佐 (健康問題担当)

星野 俊也 (ほしの としや)

大学院国際公共政策研究科



【略歴】

- 昭59. 3 上智大学外国語学部英語学科卒業
- 61. 3 東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了
- 63. 4 外務省在アメリカ合衆国日本国大使館専門調査員
- 平 3. 5 財団法人日本国際問題研究所研究員
- 4. 3 東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位修得退学
- 7. 4 財団法人日本国際問題研究所主任研究員
- 10. 4 大阪大学大学院国際公共政策研究科助教授
- 15. 3 博士 (国際公共政策) (大阪大学)
- 15. 7 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
- 18. 8 国際連合日本政府代表部公使参事官
- 18. 9 国際連合総会日本政府代表顧問
- 20. 8 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
- 22. 4 大阪大学研究・産学連携室員 (平23.3まで)
- 23. 4 大阪大学大学院国際公共政策研究科長
- 23. 8 大阪大学総長補佐 (国際問題担当)

新総長補佐紹介

宮崎 純一 (みやざき じゅんいち)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭48. 3 京都大学理学部卒業
- 50. 3 京都大学大学院理学研究科修士課程修了
- 53.11 京都大学大学院理学研究科博士課程修了
- 53.11 理学博士(京都大学)
- 58. 3 大阪大学医学部(学士入学)卒業
- 58. 4 大阪大学医学部附属病院第4内科において医学実地研修
- 58. 7 大阪大学医学部附属病院医員(研修医)
- 59. 7 米国立衛生研究所(NIH)、Visiting Associate
- 62. 4 熊本大学助教授医学部附属遺伝医学研究施設
- 平 3. 4 東京大学医学部寄附講座教授
- 6. 3 東北大学教授加齢医学研究所
- 8. 9 大阪大学教授医学部
- 13.11 大阪大学医学部附属動物実験施設長(平15.10まで)
- 20. 4 大阪大学教育・情報室員(平24.3まで)
- 23. 8 大阪大学総長補佐(学生問題担当)

村上 富士夫 (むらかみ ふじお)

大学院生命機能研究科



【略歴】

- 昭46. 3 大阪大学基礎工学部生物工学科卒業
- 48. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻修士課程修了
- 49. 9 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士課程退学
- 53.11 大阪大学助手基礎工学部
- 53.11 博士(工学)(大阪大学)
- 53.11 生物科学総合研究機構(現:自然科学研究機構)助手生理学研究所
- 56. 4 岡崎国立共同研究機構(現:自然科学研究機構)助手生理学研究所
- 62. 2 大阪大学助教授基礎工学部
- 63.12 大阪大学教授基礎工学部
- 平 9. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 10. 4 岡崎国立共同研究機構(現:自然科学研究機構)教授基礎生物学研究所(平15.3まで)
- 14. 4 大阪大学教授大学院生命機能研究科
- 18. 4 大阪大学大学院生命機能研究科副研究科長(平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院生命機能研究科研究科長(平22.3まで)
- 23. 8 大阪大学総長補佐(事務改革担当)

大和谷 厚 (やまとだに あつし)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭49. 3 大阪大学医学部卒業
- 53. 3 大阪大学大学院医学研究科修了
- 53. 3 医学博士(大阪大学)
- 53. 4 大阪大学助手医学部
- 58.10 大阪大学助教授医学部
- 平 6. 4 大阪大学教授医学部
- 15. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 15. 6 大阪大学学生生活委員会委員長(平21.3まで)
- 16. 4 大阪大学教育・情報室員(平20.3まで)
- 18. 4 大阪大学総長補佐(平20.8まで)
- 18. 4 大阪大学セクシャルハラスメント相談室長(平20.8まで)
- 19. 4 大阪大学教育研究評議員(平22.3まで)
- 19. 4 大阪大学医学部保健学科長(平22.3まで)
- 22. 8 大阪大学ハラスメント相談室長
- 23. 8 大阪大学総長補佐(ハラスメント担当)

新部長紹介

大橋 一友 (おおはし かずとも)

グローバルコラボレーションセンター長



【略歴】

- 昭57. 3 大阪大学医学部卒業
- 57. 8 大阪大学医学部附属病院医員
- 58. 7 箕面市立病院医員
- 61. 7 大阪大学医学部附属病院医員
- 62. 8 米国ニューヨーク大学研究員
- 63. 7 大阪大学助手医学部産婦人科
- 平 7. 3 大阪府立成人病センター婦人科医長
- 8.10 大阪大学助手医学部産婦人科
- 11. 3 大阪大学講師医学部産婦人科
- 11. 4 関西労災病院産婦人科部長
- 14. 4 大阪大学教授医学部保健学科
- 15. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 22. 4 大阪大学医学系研究科保健学専攻長
- 22. 4 大阪大学教育研究評議員
- 23. 8 大阪大学グローバルコラボレーションセンター長(平25.8まで)

高階 美行 (たかしな よしゆき)

外国語学部長



【略歴】

- 昭46. 3 大阪外国語大学外国語学部アラビア語学科卒業
- 48. 3 京都大学大学院文学研究科修士課程言語学専攻修了
- 48. 3 文学修士(京都大学)
- 51. 3 京都大学大学院文学研究科博士課程言語学専攻単位修得退学
- 51. 4 京都大学文学部研修員
- 56. 4 大阪外国語大学講師外国語学部
- 58.10 大阪外国語大学助教授外国語学部
- 平 6. 1 大阪外国語大学教授外国語学部
- 16.11 大阪外国語大学学長特任補佐(平18.10まで)
- 19.10 大阪大学教授世界言語研究センター
- 23.10 大阪大学外国語学部長(平25.9まで)

目加田 英輔 (めかだ えいすけ)

微生物病研究所長



【略歴】

- 昭49. 3 山形大学理学部生物学科卒業
- 49. 4 大阪大学微生物病研究所研究生
- 54.11 大阪大学助手微生物病研究所
- 57. 3 医学博士(大阪大学)
- 57. 4 大阪大学助手細胞工学センター
- 63. 4 大阪大学助教授細胞工学センター
- 63. 9 久留米大学教授(分子生命科学研究所設置準備担当)
- 平 3. 4 久留米大学分子生命科学研究所長(平5.3まで)
- 7. 4 久留米大学分子生命科学研究所長(平9.3まで)
- 12. 1 大阪大学教授微生物病研究所
- 15.10 大阪大学遺伝情報実験センター長(平17.3まで)
- 17. 4 大阪大学微生物病研究所附属遺伝情報実験センター長(平21.3まで)
- 19.10 大阪大学微生物病研究所副所長(平23.10まで)
- 23.10 大阪大学微生物病研究所長(平25.10まで)

新施設長紹介

神戸 宣明 (かんべ のぶあき)

大学院工学研究科附属高度人材育成センター長



【略歴】

- 昭51. 3 大阪大学工学部石油化学科卒業
- 53. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻前期課程修了
- 56. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻後期課程修了
- 56. 3 工学博士 (大阪大学)
- 56. 4 大阪大学助手工学部
- 63. 4 大阪大学講師工学部
- 平元.10 大阪大学助教授工学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 11. 2 大阪大学教授大学院工学研究科
- 14. 4 大阪大学工学部応用自然科学科長 (平15.3まで)
- 23. 8 大阪大学教育研究評議員 (平24.3まで)
- 大阪大学大学院工学研究科附属高度人材育成センター長 (平25.8まで)

田中 敏宏 (たなか としひろ)

大学院工学研究科附属構造・機能先進材料デザイン教育研究センター長



【略歴】

- 昭55. 3 大阪大学工学部冶金工学科卒業
- 57. 3 大阪大学大学院工学研究科冶金工学専攻前期課程修了
- 60. 3 大阪大学大学院工学研究科冶金工学専攻後期課程修了
- 60. 3 工学博士 (大阪大学)
- 60. 4 大阪大学助手工学部
- 平 7. 4 大阪大学助教授工学部
- 10. 4 大阪大学助教授工学研究科
- 14.10 大阪大学教授大学院工学研究科
- 15. 4 大阪大学工学部材料開発工学科長 (平16.3まで)
- 23. 8 大阪大学大学院工学研究科附属構造・機能先進材料デザイン教育研究センター長 (平25.8まで)

原田 明 (はらだ あきら)

大学院理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター長



【略歴】

- 昭47. 3 大阪大学理学部高分子学科卒
- 49. 3 大阪大学大学院理学研究科高分子科学専攻博士前期(修士)課程修了
- 52. 3 大阪大学大学院理学研究科高分子科学専攻博士後期(博士)課程修了
- 52. 3 理学博士 (大阪大学)
- 52. 4 大阪大学大学院理学研究科研究生
- 52.10 大阪大学理学部教務職員
- 54. 7 IBMサンノゼ研究所客員研究員
- 55. 7 コロラド州立大学客員研究員
- 57. 8 大阪大学産業科学研究所助手
- 63. 9 大阪大学理学部助手
- 平 2. 7 スクリプス研究所客員研究員
- 6.11 大阪大学理学部助教授
- 8. 4 大阪大学大学院理学研究科助教授
- 10. 4 大阪大学大学院理学研究科教授
- 23. 8 国立大学法人大阪大学教育研究評議員 (平24.3まで)
- 23.10 大阪大学大学院理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター長 (平25.8まで)

新教授紹介

松島 法明 (まつしま のりあき)

社会経済研究所



【略歴】

- 平 8. 3 東京工業大学工学部社会工学科卒業
- 10. 3 東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻修士課程修了
- 13. 3 東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻博士課程修了
- 13. 3 博士(工学)
- 13. 4 信州大学経済学部講師
- 16. 4 信州大学経済学部助教授
- 17. 4 神戸大学大学院経営学研究科助教授
- 19. 4 神戸大学大学院経営学研究科准教授
- 21. 4 大阪大学准教授社会経済研究所
- 23. 8 大阪大学教授社会経済研究所

所 属：社会経済研究所理論経済学研究部門
 専門分野：応用ミクロ経済学

望月 秀樹 (もちづき ひでき)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭60. 3 順天堂大学医学部卒業
- 60. 6 順天堂大学医学部神経学教室に入局、専攻生
- 62. 8 都立神経病院 常勤医員
- 平 2. 6 順天堂大学脳神経内科 助手
- 5. 6 医学博士(順天堂大学)
- 6. 4 都立松沢病院 常勤医員
- 8. 7 米国, NIH, NINDS(Brady lab) 留学(Visiting Associate)
- 11.10 順天堂大学脳神経内科 臨床講師
- 17.10 順天堂大学越谷病院脳神経内科 助教授
- 18.10 順天堂老人性疾患病態・治療研究センター 助教授
- 21. 7 北里大学医学部神経内科学 主任教授
- 22. 9 北里大学医学部寄附講座神経再生医療学 講座責任者
- 23. 9 大阪大学教授大学院医学系研究科

所 属：大学院医学系研究科情報統合医学講座
 (神経内科学)
 専門分野：神経内科学、パーキンソン病、遺伝子治療、再生医療

藤目 ゆき (ふじめ ゆき)

大学院人間科学研究科



【略歴】

- 昭59. 3 京都大学文学部卒業
- 62. 3 京都大学大学院文学研究科史学科現代史学専攻前期課程修了
- 平 2. 3 京都大学大学院文学研究科史学科現代史学専攻後期課程単位修得退学
- 2. 4 日本学術振興会 特別研究員(平4.3まで)
- 7. 3 博士(文学)(京都大学)
- 8. 4 大阪外国語大学助教授外国語学部
- 19. 4 大阪外国語大学准教授外国語学部
- 19.10 大阪大学准教授大学院人間科学研究科
- 23. 9 大阪大学教授大学院人間科学研究科

所 属：大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻人間開発学講座
 専門分野：日本近現代史・ジェンダー論

新教授紹介

三 藤 博 (みつとう ひろし)

大学院言語文化研究科



【略歴】

- 昭56. 3 京都大学文学部文学科卒業
- 56. 4 京都大学大学院文学研究科修士課程入学
- 58. 3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 58. 4 京都大学大学院文学研究科博士後期課程入学
- 60. 3 京都大学大学院文学研究科博士後期課程退学
- 60. 4 大阪外国語大学助手外国語学部
- 63. 1 大阪外国語大学講師外国語学部
- 平 4. 1 大阪外国語大学助教授外国語学部
- 7. 4 大阪大学講師言語文化部
- 8.10 大阪大学助教授言語文化部
- 9. 4 大阪大学助教授大学院言語文化研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院言語文化研究科
- 23.10 大阪大学教授大学院言語文化研究科

所 属：言語文化研究科言語文化専攻言語情報科学講座

専門分野：理論言語学、フランス語学

森 島 圭 祐 (もりしま けいすけ)

大学院工学研究科



【略歴】

- 平 5. 3 名古屋大学工学部機械学科卒業
- 7. 3 名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程電子機械工学専攻修了
- 10. 3 名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程マイクロシステム工学専攻修了
- 10. 4 日本学術振興会特別研究員 (PD)
- 10. 6 スタンフォード大学理学部化学科博士研究員
- 13.11 財団法人神奈川科学技術アカデミー常勤研究員
- 16. 2 ルンド工科大学電子計測学科客員研究員
- 17. 3 東京農工大学助教授大学院工学府
- 19. 4 東京農工大学准教授大学院工学府
- 19.12 東京農工大学准教授大学院生物システム応用科学府
- 22. 4 東京農工大学准教授大学院工学研究院先端機械システム部門
- 23.10 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科機械工学専攻知能機械学講座

専門分野：バイオMEMS、マイクロTAS、ウエットロボティクス

豊 田 岐 聡 (とよだ みちさと)

大学院理学研究科



【略歴】

- 平 6. 3 大阪大学理学部物理学科卒業
- 8. 3 大阪大学大学院理学研究科博士前期課程物理学専攻修了
- 8. 4 日本学術振興会特別研究員 (平8.7まで)
- 8. 7 大阪大学大学院理学研究科博士後期課程物理学専攻退学
- 8. 8 大阪大学助手大学院理学研究科
- 12. 3 博士 (理学) (大阪大学)
- 18. 2 大阪大学助教授大学院理学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院理学研究科
- 23.10 大阪大学教授大学院理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター

所 属：大学院理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター

専門分野：質量分析学

奥野良臣名誉教授(微生物病研究所) 逝去



本学名誉教授奥野良臣先生は、8月1日(月)にご逝去されました。享年96歳でした。

先生は、昭和16年3月大阪帝国大学医学部を卒業後、昭和17年1月大阪帝国大学助手、昭和20年12月大阪帝国大学附属医学専門部教授、昭和23年3月大阪大学微生物病研究所助教授を経て、昭和31年12月に同研究所教授に昇任されました。また、昭和43年4月から昭和47年3月までは同研究所長として同研究所の管理・運営に努められ、同研究所の発展に大きく寄与されたほか、本学評議員及び本学各種委員会委員等を歴任されるなど、大学行政の枢機に参画されるとともに本学の充実、発展に尽力されました。

昭和53年3月大阪大学を停年により退官され、同年4月大阪大学名誉教授の称号を授与されました。大阪大学退官後は、引き続き財団法人阪大微生物病研究会理事、評議員を努められ、研究に従事されました。

先生の病原微生物学分野における研究は広範多岐にわたっており、猿マラリア原虫を利用した抗マラリア剤の探求、デング熱ウイルスの分離、麻疹ウイルスの分離、数種のウイルス生ワクチンの開発及びウイルス疾患の疫学的研究等の研究を実施されておりました。特に麻疹ウイルスの分離は、世界のウイルス研究者間における永年の懸案でありましたが、1954年頃にアメリカのエンダース博士とほぼ時期を同じくして成功しました。同人の分離方法はエンダース博士の細胞培養法を利用するものとは異なり、例えばムンプウイルスとの干渉現象を利用する分離方法でありました。この方法は後に外国でも利用され、分離困難とされていたライノウイルス、風疹ウイルス等はこの方法を用いて分離に成功しました。この顕著な業績によって昭和40年12月に第1回小島三郎博士記念文化賞が授与されました。

以上のように同人は、病原微生物学の分野において、優れた研究業績を挙げ、医学の進歩に大きく寄与され、その功績により昭和53年4月紫綬褒章を受章されております。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(微生物病研究所)

内藤 僑名誉教授(医学系研究科) 逝去



本学名誉教授内藤 僑先生は平成23年8月13日(土)に逝去されました。享年94歳でした。

先生は昭和15年に大阪帝国大学医学部を卒業され、耳鼻咽喉科学教室に入局されました。昭和17年に大阪帝国大学助手、昭和26年に大阪大学講師、昭和33年に助教授となり、昭和41年に第5代教授に就任されました。昭和55年に停年退官された後は、堺市保健医療センター所長などを歴任されました。

先生は耳鼻咽喉科学全般、特にメニエール病をご専門とされておりました。研究面では、モルモットを用いてメニエール病の病態である内リンパ水腫の動物モデルの作製に世界に先駆けて成功されました。更に、モルモットに自立神

経障害、ストレス、局所刺激(騒音あるいは角加速度刺激)を与え、内リンパ腔の形態学的変化を観察する研究を行われました。その結果、個別の刺激では変化は生じないものの全ての刺激を与えると内リンパ水腫が生じることを発見されました。一方臨床面においては、メニエール病の外科治療としてPortmann式内リンパ嚢開窓術を改良した山川-内藤法を考案され、本法は内リンパ嚢開窓術の発展において世界的に多大な寄与をしてきました。また、平衡機能検査、特に回転検査の有用性を確立され、メニエール病の発症要因として椎骨動脈血流の重要性について世界で初めて言及されました。こうした一連の功績から、平成2年に勲三等旭日中綬章の叙勲ならびにMeniere Societyからゴールドメダルを受賞されました。ゴールドメダルの裏側には、“For his pioneering work in creating experimental model of endolymphatic hydrops (1950) and for his innovative surgical treatment of Meniere’s disease (1952)”と刻まれています。また、先生は日本耳鼻咽喉科学会総会においてメニエール病に関連して実に2回(昭和34年、昭和48年)にわたり宿題報告をされていますが、これは極めて異例なことであり、先生のメニエール病の研究における卓抜した業績を端的に表しているものと云えます。

本邦の耳鼻咽喉科学の発展において多大な貢献をされた先生のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

(医学系研究科・医学部)

寺田浩詔名誉教授(工学部)逝去



本学名誉教授寺田浩詔先生は、平成23年8月23日(火)にご逝去されました。享年78歳でした。

先生は、昭和31年愛媛大学工学部電気工学科をご卒業後、大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻に入学され、修士課程を修了、博士課程を単位修得退学、大阪大学工学部助手、講師、助教授を経て、昭和51年教授に昇任、電子工学科第4講座(電子機器工学)、情報システム工学科情報システム構成学講座、同情報システム基礎論講座を担当され、大阪大学大型計算機センター長を併任、平成9年に大阪大学を停年退官、名誉教授の称号を授与されました。

大阪大学退官後、同年4月に開学の高知工科大学教授・工学部情報システム工学科長に就任され、情報図書館長、理事・副学長、工学研究科長、研究本部長など要職を歴任、平成17年任期満了で退職、高知工科大学名誉教授の称号を授与されました。また、平成9年よりソフトバンクテレコム株式会社情報通信研究所長を兼務され、平成17年から同研究所顧問を務めてこられました。

この間、先生は長年にわたり広い視野と高邁な識見で学生の教育、研究の推進並びに後進の指導育成に努められ、多くの優れた研究者、技術者を社会に送り出されました。

研究においては、電子交換機などの実時間高度並列処理向きのデータ駆動型言語、データ駆動型アーキテクチャ、並びにそれらの超高集積化向き実現法について先駆的な研究を行われ、多数の業績を挙げてこられました。従来のプロセッサ構造の制約を脱した、非同期型でも同期型でもない完全自律分散制御方式である自己タイミング型パイプライン回路構成の導入によって、世界初の1チップ動的データ駆動型プロセッサの実現を先導されました。また、ソフトウェア開発を系統的に行う上での困難が従来の逐次代入

型処理方式の持つ本質的な欠陥に起因していることをいち早く指摘され、より自然な処理実行方式であるデータ駆動型処理方式を導入することにより、ユーザが親しみを持つ図的な仕様記述から実行可能なプログラムを直接的に生成する体系の開発に貢献されました。さらに、統合的なシステム仕様記述からハード・ソフトを並列に生成する研究を進め、ハイビジョンテレビや各種画像信号処理システムなどの開発に適用されました。また、従来の通信方式に縛られることなく光伝送技術の利点を極限まで追求したホロニック光ネットワークに関する研究を進め、符号分割多重接続技術などによる全光型の将来の情報通信システムの構成法に関する研究に貢献されました。

先生は以上のような教育・研究活動に尽力されるとともに、学外においては電子情報通信学会副会長、同理事・企画室長、同評議員、情報処理学会理事、同常務理事、同関西支部長、テレビジョン学会関西支部長、同評議員、日本自動制御協会理事、同監事、システム制御情報学会評議員、日本パーソナル・コンピュータ利用技術者協会理事、土佐アイ・ティ評議会理事長など、学協会において数多くの役職を歴任され、国際的にもIEEE東京地域理事、同プログラム委員長、IEEEマルチメディア・ワークショップ組織委員長、ACMマルチメディア国際会議プログラム委員会副委員長、電子交換国際会議組織委員会副委員長などとして活躍され、同分野の発展に多大な貢献をなされました。また、文部省学術審議会専門委員、同学位授与機構専門委員、経済産業省事前評価委員、郵政省次世代モバイル研究開発プロジェクトサポートメンバー会議委員、高知医療センター統合情報システム評価委員会委員、高知県科学・技術アカデミーミッション統括会議委員などを歴任され、我が国の科学技術研究の向上発展に貢献されました。

これらの功績により、電子情報通信学会より業績賞、小林記念特別賞、功績賞を受賞され、フェロー、名誉員の称号を授与されています。また、平成14年には情報通信研究に顕著な業績があった者に与えられるエリクソン・テレコミュニケーション賞を受賞され、これを記念して高知工科大学では、研究成果等に秀でた大学院学生を表彰する「寺田賞」が創設されています。

先生の多大なご功績を偲び、ここに謹んで哀悼の意を表しますとともに心よりご冥福をお祈り致します。

(工学研究科・工学部)

野櫻俊一名誉教授(理学部)逝去



本学名誉教授野櫻俊一先生は7月26日(火)、肺炎のため逝去されました。享年86歳でした。

先生は旧制本学理学部化学科の12回生で、昭和21年9月にご卒業されました。赤堀四郎先生の研究室のご出身で、有機合成がご専門です。昭和47年から高分子科学専攻の

村橋俊介先生の研究室を引き継がれ、昭和63年のご退官まで、高分子合成化学に関してのご研究と教育に全力を注いでおられました。また、ご研究だけではなく、ご在職中には学生部長などを務められ、本学の運営にも並々ならぬご尽力をなされました。

先生は早くからエネルギー問題や環境問題に取り組まれており、1970年代、ローマクラブからの提言のころから、上記の諸問題の重要性を説いておられ、太陽エネルギーの利用や水溶性高分子の設計と合成研究などの先駆けとなりました。先生は常々、「ミッションオリエンティッドの研究」(使命を有した研究)の重要性も説いておられ、斬新なお考えで40年前には既に、現在の世界の動向を見通されておられました。真に重要なことは、長く時代を超えて人類に貢献することが出来ることを示したものと思います。まさに大学の使命を全うされたのではないのでしょうか。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(理学研究科・理学部)

大阪大学室内楽アンサンブル第13回演奏会

大阪大学室内楽アンサンブル（OUCE）は、クラシック音楽の日常的な練習会および定期的な演奏会活動を通して、大阪大学の文化的基盤の醸成と大阪大学構成員間のコミュニケーション促進に微力を尽くすことを目的として、平成17年4月に設立されました。大阪大学の大学祭行事の一環として年2回（春・秋）、MOホールにおいて演奏会を開催し、毎回多くの方にご来聴をいただいております。

平成23年4月30日に開催された第12回演奏会は、今まで演奏する機会のなかったピアノ連弾などの編成にも取り組み、好評を博しました。

平成23年11月3日(木/祝)に第13回演奏会を下記の通り開催いたします。

今回は、オープニングといたしまして、弦楽器・管楽器・ピアノ・打楽器の総勢15名で、小曲で構成される「動物の謝肉祭」をナレーションを交え演奏いたします。

皆様、お誘い合わせの上、ご来聴賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

詳しくは、OUCEのホームページ（<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~ouce/>）*をご覧ください。（*当ホームページは、クラシック音楽情報センター（<http://www.musicinfo.com>）より、サーバーの無償提供を受けています。）

〈問い合わせ先〉 shinomiya@chem.eng.osaka-u.ac.jp

日時：平成23年11月3日(木/祝) 開場：13:30 開演：14:00

場所：大阪大学コンベンションセンター MOホール

入場無料

（演奏曲目）

サン＝サーンス：動物の謝肉祭

ブラームス：弦楽六重奏曲 第一番 1楽章

ジョリベ：Pastrales de Noël ～クリスマスの牧歌～

シューマン：ピアノ四重奏曲 Op.47 1楽章

シューマン：ピアノ四重奏曲 Op.47 3楽章 4楽章

モーツァルト：フルートカルテット1番 二長調 K.285

休憩時間にはリコーダー演奏もあります。



* OUCEでは一緒に演奏していただける方を募集しています（特にチェロ奏者）

OUCEの演奏に参加してみたい方はぜひ下記までご連絡ください。

四宮良美 shinomiya@chem.eng.osaka-u.ac.jp

堀井俊宏 horii@biken.osaka-u.ac.jp



第52回大阪大学まちかね祭

大阪大学豊中キャンパスで開催される「まちかね祭」では、例年、日頃のクラブ・サークル活動における成果の発表やステージでのライブ、スポーツ大会、研究室開放、模擬店などの企画が行われ、本学学生だけでなく学外からの多くの来訪者で賑わっています。

52回目を迎える今回のまちかね祭では、「阪大、∞。(はんだい、むげんだい。)」をテーマに、学生一同素晴らしい大学祭になるよう日々活動しております。大学創立80周年を迎えますますます盛り上がるまちかね祭への皆様のご参加をお待ちしています。



開催期間：11月4日(金)～11月6日(日) 各日10:00～19:00

開催場所：大阪大学豊中キャンパス(豊中市待兼山町)

アクセス：阪急電車宝塚線・箕面線「石橋駅」下車 徒歩15分 大阪モノレール「柴原駅」下車 徒歩10分

※詳しくは、まちかね祭公式ウェブサイト (<http://www.machikanesai.com/>) でご確認ください。

お問い合わせ先：大阪大学 大学祭中央実行委員会

豊中市待兼山町1番10号 大阪大学学生部学生交流棟気付

TEL/FAX: 06-6857-1806 Mail: info@machikanesai.com



大阪大学キャンパス施設白書の作成・公表

本学においては、文部科学省の「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画」の支援のもと、平成18年度からの5年間で緊急に整備すべき施設に対する重点的・計画的整備に取り組んで来ましたが、まだ全ての課題解消には至らず、本学の長期的なビジョンを踏まえつつ、今後とも現実的な知恵と工夫を結集させることが更に必要になります。

そのため、本学の基盤となる施設の実態を『大阪大学キャンパス施設白書』という形で取りまとめ広く提供することで、施設の現状とその課題に対する認識を深め、表面的な問題点のみならず本質的な課題にも着目し、その中から、課題解決に向けた具体的な提案や行動はもちろん、将来計画を踏まえた各種施策展開や改善企画立案に衆智を集めて取り組みたいと考えておりますので、皆様のご協力よろしくお願いたします。

(本学ホームページ掲載場所：<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/organization/facilities.html>)

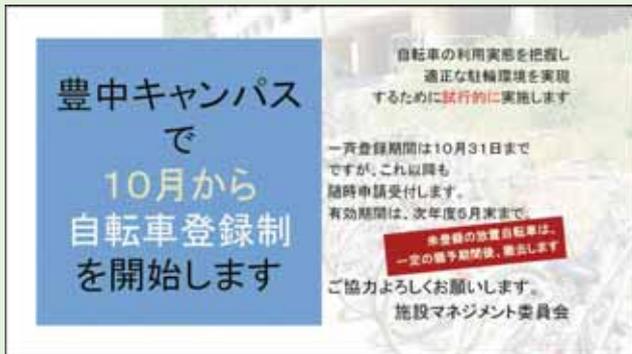


(施設部)

10月より豊中キャンパスで自転車登録制を開始します

豊中キャンパスでは従前より、キャンパス内の大量の駐輪や阪大坂の自転車通行問題など、自転車の利用に際する安全上およびバリアフリー上の問題が認識されています。

豊中キャンパスにおける自転車の利用実態を正確に把握し、構内の適正な駐輪環境を実現するために、豊中キャンパス自転車登録制を試行的に実施するものとします。



詳しくは大阪大学ホームページ（書式もダウンロードできます）、または施設部企画課まで。

sisetu-kikaku-soumu@office.osaka-u.ac.jp

（施設マネジメント委員会・施設部）

第6回大阪大学ホームカミングデー

平成18年度から本学卒業生及び教職員OB等の方々を対象に毎年いちょう祭の開催に合わせ、年に一度キャンパスに足を運んでいただき、旧交を温めていただくとともに、「今」の大阪大学をご覧いただき、「これから」の本学に一層の関心をお寄せいただく日として「ホームカミングデー」を開催しております。

第6回目となる本年のホームカミングデーにつきましては、当初5月に予定しておりましたが、今年は東日本大震災の影響もあり、まちかね祭の開催に合わせ、11月6日（日）10時から開催することに決定いたしました。

1. 実施主体 主催：大阪大学
協賛：大阪大学同窓会連合会
2. 開催日 平成23年11月6日（日） ※ まちかね祭 11/4（金）～11/6（日）
3. 式典会場 ■メイン会場：大阪大学豊中キャンパス
挨拶・活動報告・講演（10：00～11：20）・・・大阪大学会館講堂
懇談会（11：40～13：00）・・・附属図書館下生協食堂
4. 次第 ■大阪大学応援団による歓迎（10：00～10：15）
■挨拶・近況報告（10：15～10：35）
・主催者代表挨拶・大阪大学近況報告 大阪大学総長 平野 俊夫
・同窓会連合会代表挨拶 大阪大学同窓会連合会会長 熊谷 信昭（大阪大学元総長）
■基調講演（10：35～11：20）
「わが母校の伝統と教え」 大阪大学名誉教授 多田羅 浩三 様

お問い合わせ

広報・社会学連携オフィス 広報・社会学連携事務室内 大阪大学同窓会連合会事務室

Tel:06-6879-7152 Fax:06-6879-7156

E-mail: dousoukai-r@ml.office.osaka-u.ac.jp

https://alumni.jim.osaka-u.ac.jp/alumni/

（広報・社会学連携オフィス 広報・社会学連携事務室）

大阪大学卒業生の集い

大阪大学では、平成18年から豊中キャンパスにおいて、ホームカミングデイを開催しております。

しかしながら、多くの卒業生が東京を中心とした関東圏内に居住しており、卒業生の皆様方からも関東において集える機会を望む声も多く、2011年に創立80周年を迎える本学の活動等を含め、多くの卒業生に母校の現状と発展する姿を広くアピールするために平成21年度から開催しております。

(主 催) 大阪大学

(協 賛) 大阪大学同窓会連合会

(日 時) 平成23年12月2日(金) 18:00～21:00

(場 所) 学士会館 210号室 【収容人数250名】(講演会場) 201号室 (交流会会場) 202号室 (交流会会場)

(会 費) 3,000円

(内 容) 1. 挨拶、大阪大学の活動状況報告(18:00～18:30)

・主催者代表挨拶及び大学活動報告 大阪大学総長 平野 俊夫

2. 本学卒業生による講演会(18:30～19:15)

第一三共株式会社代表取締役社長 中山 譲治 様

【休憩】(19:15～19:20)

3. 交流会(19:20～21:00)

・同窓会連合会会長挨拶 大阪大学同窓会連合会会長 熊谷 信昭

(申し込み方法)

準備の都合上、お手数ですが、ご出席の場合につきまして11月22日(火)までにご回報くださいますようお願い申し上げます。(メール送信の際の表題は、「卒業生の集い」とご記入いただけますようお願いいたします。)

※本件の詳細につきましては、大阪大学同窓会連合会ホームページでもご案内しておりますので併せてご参照ください。

(<https://alumni.jim.osaka-u.ac.jp/alumni>)

本件お問い合わせ先

大阪大学同窓会連合会事務局

TEL:06-6879-7152、FAX:06-6879-7156 E-mail: dousoukai-r@ml.office.osaka-u.ac.jp

(広報・社学連携オフィス広報・社学連携事務局)

平成23年度大阪大学適塾記念講演会 —大阪大学適塾記念センター設立記念—

大阪大学では、緒方洪庵及び門下生の業績を顕彰するとともに、事業の一つとして毎年記念講演会を開催し、大阪発のオリジナル学術・文化の成果をお伝えしています。本年は、大阪大学適塾記念センターが設置され、その設立記念講演会としても開催いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。

日 時: 平成23年11月30日(水) 18:00～20:00

会 場: 大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール(大阪市北区中之島4-3-53 TEL 06-6444-2100)

主 催: 大阪大学・適塾記念会

プログラム:

講演1 「環境政策最前線— リオ会議20周年に向けて—」

大阪大学大学院法学研究科教授 大久保 規子

講演2 「整形外科の歴史と最先端治療」

大阪大学大学院医学系研究科教授 吉川 秀樹

受講料: 無料(定員190名: 先着順)

お申込みはFAX、メールにて、お名前、連絡先(ご住所・電話番号)をお知らせください。

おって、受講確認の連絡をさせていただきます。

お申込み先・お問い合わせ先: 大阪大学適塾記念センター

TEL 06-6850-5016 FAX 06-6850-5015 E-mail kinenkai@tekijuku.osaka-u.ac.jp

(適塾記念センター)

大阪大学総合学術博物館第14回企画展 脳の中の「わたし」と情報の中の〈私〉

- 会 期：2011年10月25日（火）～2012年2月4日（土） 10：30～17：00 入場無料
日祝および年末年始（12月29日～1月3日）休館。ただし11月3日（木・祝）、11月6日（日）は開館
- 会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
- 主 催：大阪大学総合学術博物館、大阪大学大学院情報科学研究科
- 協 賛：情報通信研究機構（NICT）
- 協 力：大阪大学大学院医学系研究科、大阪大学21世紀懐徳堂

開催趣旨

本展覧会は、本学創立80周年協賛事業として、脳の中の「わたし」と情報の中の〈私〉をテーマに企画されました。本学がリードする人間科学と情報科学の融合研究をもとにした10点余りの体験型作品を展示します。企画を務める安藤英由樹は、国内外の著名な展覧会において視覚や触覚に関する最先端インタフェース技術を駆使した展示を行ってきました。脳の中で認識している「わたし」と、インタフェース技術によって再び提示された情報の中の〈私〉が必ずしも一致しない・・・そんな不思議な感覚が味わえる体験型の展覧会をお楽しみ下さい。



ミュージアムレクチャー

いずれも聴講自由、30分前より受付開始。定員60名。

【第36回】11月12日（土）13：30～15：00

宮原秀夫（情報通信研究機構理事長、元大阪大学総長）「生物に学ぶ情報学」

【第37回】11月19日（土）13：30～15：00

藤田一郎（大阪大学大学院生命機能研究科教授）「脳が世界を見る～わたしが知らないうちに」

【第38回】11月26日（土）13：30～15：00

柳田敏雄（大阪大学大学院生命機能研究科特任教授）「ゆらぎが脳をひらめかす」

【第39回】2012年1月14日（土）13：30～15：00

渡邊淳司（NTTコミュニケーション科学基礎研究所 リサーチスペシャリスト）「「わたし」を知るためのメディア技術」

【第40回】2012年1月21日（土）13：30～15：00

藤木淳（国際メディア研究財団研究員）「(人間の法則+物理の法則) ÷ 2」

ワークショップ

3階セミナー室にて開催。当日先着順、整理券を配付。（代理で整理券を受け取ることはできません。）

「心臓ピクニック」

坂倉杏介+安藤英由樹

生命に不可欠な心臓。その鼓動を手の中に感じるワークショップ

11月3日（木・祝）・4日（金） 11：00～12：00 / 13：30～14：30 / 15：30～16：30

全6回 各回定員12名 小学4年生以上対象

「文章の読み跡」

丸谷和史+渡邊淳司+安藤英由樹

文章を読むときに感じる「抑揚や調子」をより深く体感するワークショップ

12月3日（土） 11：00～13：00 / 14：30～16：30

全2回 各回定員8名 小学4年生以上対象

会場

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

Tel 06-6850-6284 <http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



INTERVIEW

かしわぎ のぶ ゆき
柏木 伸之

自然と一体に

理学研究科経理係

柏木さんは、現在、理学研究科経理係で運営費交付金の予算管理を担当しています。採用当初の「若狭湾少年自然の家」で「シーカヤック」に出会い、週末は琵琶湖にツーリングに出かけるという柏木さんにお話を伺いました。

■ シーカヤックとは

カヤックのうち、海で漕ぐことに適したものを指し、イヌイトなどの極北の人々が海で狩猟するために生み出したものが原形とされる。「誰でも始めやすいと思います。体に負担が少なく、体力の維持にもいいんですよ。」と説明してくれた。

■ シーカヤックとの出会い

平成19年10月に阪大に採用となったが、最初の任地は「若狭湾少年自然の家」であった。初めて大阪を離れることへの多少の不安はあったものの持前の前向き精神で若狭行を決心したのだった。

自然の家では、利用団体の受け入れ、カッター（30人乗りのボート）の出艇補助、子供達のキャンプの補助、チェーンソーで木の伐採等と幅広く担当していた。「鹿が敷地で死んでたら引っ張って移動もさせますし、ボート修理ではFRP（繊維強化プラスチック）職人みたいになってましたね。今の仕事とは全然違います（笑）」

毎年夏、小学生対象に実施される事業の中で「無人島カヤックツアー」の指導をしていた大瀬さん（滋賀県のカヤックショップオーナー）との出会いがシーカヤックとの出会いであった。自然と一体になることがシーカヤックの魅力だと小学生に指導する大瀬さんの姿を見て「楽しそうだなあ」と思うようになった。

しばらくして、当時の課長から「カヤックの写真とるから乗って見ない？」と言われ、カヤックに乗るチャンスが



船を操り、当時の課長とともにカヤックを沖まで運ぶ柏木さん（奥）

巡ってきた。海はやや荒れていて、初めて乗るには難しいコンディションであったが、生まれて初めて乗ったカヤックは、「死ぬほど面白かった」と感動を振り返る。

その後シーカヤックに乗る機会は増えていったが本格的にのめり込むまでには至っていなかった。そんな柏木さんをシーカヤックに導くことになった決定的な事件は、阪大への異動が決まり、若狭を去る日に挨拶に寄った大瀬さんの店に飾られていたフェザークラフトというカヤックとの出会いであった。その無駄のない機能的なフォルムに魅せられ気づけば買うことになっていた。「自分でもなぜあんな高価なものをいきなり買ってしまったのかわかりません」と語るが、きっと、2年間の若狭での数々の出会いの中で大瀬さんとシーカヤックの存在がそれだけ大きなものになっていたのだろう。

大阪に帰ってきてからは、週末は頻繁に琵琶湖へ出かけるそうだ。好きで熱中できるものに出会えた柏木さんは家族の理解もあり、充実のシーカヤックライフを送る。

■ シーカヤックの魅力

「自然と一体になれるんです。日常から離れ、自分自身を見直すことができるんですね。一番好きな季節は実は真冬です。動物も魚も動かない、完全に凪ぐときがあって、パドルの音しかしない静寂の中ではだんだん『無』に近づく気がしてきてとても心が落ち着きます。」



カヤックを通じて考え方も変わったという。「カヤックって自然と向き合ってるから本音と建前がないんですよ。日常もカヤックに乗っているときのような心の平静を保てるようになりたいです。」

■ これからの目標

「職場のみんなが楽しく働けるようになる職員になりたいですね。カヤックに関して言うと息子といっしょに行けるようになったらと思っています。まだ0歳7か月ですが。」

サンフランシスコ (SF) カフェとグローバル人材育成

大阪大学サンフランシスコ教育研究センター長

久保井 亮 一

■ 北米同窓会総会とネットワーク活動について

母校創立 80 周年記念の意義も込めた北米同窓会総会・特別講演会・交流会が、荒谷会長のお膝元、ニューヨーク・コーネルクラブで開催された（7月8日・9日一写真掲載）

在ニューヨーク日本総領事館首席領事篠原守氏（基礎工卒）から「最近の日米外交」の特別講演があり、3. 11の東日本大震災に際してのトモダチ作戦を始めとする米国からの緊急支援の状況も含めて、日米の長年に亘る友好関係が共通の価値観を基盤としており、また日米協働によるグローバル人材育成は、今後益々重要性を増していくとのお話があった。大阪大学理事・副学長（国際交流担当）辻毅一郎氏（工卒）からは、「最近の阪大の動向」として、最近の欧州同窓会設立記念式典の様相も交え、教育・研究・社会貢献に益々大きな貢献を続ける母校の最新動向の紹介があった。その中で最新のキャンパスビデオの紹介もあり、最近の阪大3キャンパスの変貌ぶりに参加者の間で大いに会話が弾んだ。これらの模様は、後日同窓生の今井氏（旧大阪外大卒）により、本紙掲載の集合写真と共に邦人向けフリーペーパー「週刊NY生活」の記事となって一般に紹介された。



大阪大学北米地区同窓会

理事会・総会では、東日本大震災での北米同窓会義捐金活動・会計報告・新役員体制（副会長の1名は帰国留学生、理事の1名は旧大阪外国語大学同窓会咲耶会担当理事）、各地区活動の活性化を担う担当理事の紹介、NPO 法人として事務局をSFセンターに置き、ニューヨーク・ワシントンDC・シカゴ・ロス・SF地区の全米5地区体制（会員登録者約500名、内帰国留学生約50名）での、各地区での活発な活動紹介等があった。

講演会終了後の懇親会・二次会では、始めて参加したという数名の方も含めて、各自思い思いの自己紹介や記念品を持ち寄ってのラッフルゲームをしながら賑やかに楽しく懇親のひとときをもった。仕事から婚活まで種々の情報交換があったが、世代の異なるメンバーの間で、貴重なネットワークキングの機会となったと思われる。

さらに翌日の大型バスをチャーターした丸一日のロングアイランド・ワイナリーツアーでは、家族・友人も含め

40名が参加し、和気藹々と懇談を楽しみ、野外のテーブルでは荒谷会長夫妻の心づくしのピクニック料理のもてなしも受け、大満足で、次の再開を期して全員無事に帰途につくことができた。

■ SFカフェとネットワーク活動について

当センターは、サンフランシスコの中心に位置し、SF国際空港からもBARTで約30分、国際会議場（モスコーンセンター）やUC・総領事館・各種国際機関からも直近という立地に恵まれ、本学関係者・学生・同窓生は勿論、本学と提携している大阪市・北米大学等の関係者、他大学・研究機関等から多くの方々が訪問され、各種のネットワークキングの舞台としても機能している。ここでは、最近の幾つかの活動について紹介する。

・SFサイエンス・カフェ（高部英明教授：6月9・10日、河田聡教授：7月18日）

本学レーザー研高部教授のSFセンター訪問を機会に、同窓生や当センター協力者が集まり、東日本大震災や福島原発問題、グローバル人材育成等について、当センター会議室にてインフォーマルな意見・情報交換・交流会を行った。

スタンフォード大学ナノサイエンスセンターに客員教授として滞在中であった河田聡教授をゲストに“A Success of Business Start-Up in Japan”と題して、日本の大学での起業化の体験と特徴等についてインフォーマルに英語で話題提供をいただいた。

・SFネットワークサロン（北山啓三大阪市副市長一行7名との懇談会：7月13日一写真掲載、早稲田大学副総長一行4名との懇談会：8月31日）

本学辻理事・副学長、北山副市長一行らと、サンフランシスコ市庁舎に、SF市長・副市長らを表敬訪問し東日本大震災に際してSF市から頂いた大きな支援への感謝と共に、来年の大阪・SF姉妹都市55周年に向かってさらに、協力関係を強化することが話し合われた。その後当センターにて、北山大阪市副市長ら一行7名を歓迎・交流すると共に、今後の連携協力の強化等に関して種々情報交換を行なった。

内田勝一副総長一行4名とも種々情報交換を行なった。



SF ネットワークサロン（大阪市副市長北山氏一行との懇談会）

・SFミニカフェ（中・高校生交流：8月12日、大阪大学学部生交流：9月18日）

長野県から中・高校生が当センターを訪問する機会を利用して、センター長から歓迎と人材育成に向けてのインフォーマルな講義・話題提供（グローバルリーダー育成という趣旨を踏まえ、咸臨丸SF渡航150周年の意義やジョン万次郎・福沢諭吉・本学の源流適塾等、江戸・明治期に日本の若者により開かれた日米関係史等）を行なった。

当センターでは、本学学部生向けに遠隔講義（国際教養科目）3科目を配信（前期約200名、後期約100名受講、本年度より後期集中遠隔講義を配信予定）しているが、新入生の早い段階での留学経験こそ、大学／日本の国際化につながるとされる。実際にこの講義を受けた理学部・基礎工学部1年生等6名が、当センターを訪問して情報交換・交流を行った。



理学部学生発表
（現地高校にて）

理学部学生現地高校生との交流



・SF日米学生交流会（8月19日、9月14日・16日一写真掲載）

若手ネットワーク形成を促進すべく、SF総領事館や日本語教師会等の若手の協力も得て当センターは日米学生交流会の企画・支援を行っているところである。8月19日には、SF総領事館の若手職員の協力のもと、日米若手職員学生交流会としてバーベキューパーティを開催した（企業からの若手も含めて参加約60名）。

9月14日には理工系大学院生のための海外研究発表研修の研修生とUCバークレーの学部学生との交流会がUCバークレー教室・同International Houseで盛会裏に開催された（日米学生約80名）。また、9月16日には理学部科学英語夏期海外研修の研修生とSF市内のジョージワシントン



理工系大学院生のための海外研究発表研修における日米学生交流会

（GW）高校の高校生との交流会がGW高校およびSF市内で賑やかに開催された（日米学生約40名）。

■産官学連携によるグローバル人材育成について

・グリーン大阪プロモーションセミナーと産官学ネットワーク活動（7月13日一写真掲載）

本学は大阪市と包括提携しており、北米では当センターも大阪市北米（シカゴ）事務所と種々連携協力して活動を進めている。その協力の一環として、SF市内中心にあるParc 55 Wyndham Hotelで開催された標記セミナーでは、北山啓三氏と共に本学からも、辻毅一郎理事・副学長（国際交流担当）に参加いただき「Industry-University-Government Collaboration in Clean Tech in Greater Osaka」と題して、大阪大学の誇る先端的研究や環境エネルギー技術、大阪市を中心に産官学連携して進めている大阪駅北ヤードにおける大型事業などに関して、最新の写真等を交えて講演いただいた。東日本大震災後の現状と、日本の産業のもう一つの中心としての大阪の総合的なポテンシャルのプレゼンテーションに、早朝のセミナー（8時～10時）にもかかわらず、定員を上回る70名近い参加者が、熱心に聴講した。終了後、SF・大阪姉妹都市委員会主催の昼食会、インターソーラー北米2011（モスコーンセンター・ウェスト）でも、産官学交流・ネットワークを活発に行なった。



グリーン大阪プロモーションセミナー

・新咸臨丸プロジェクトと日米トモダチ協働作戦セミナー（7月7日）

東日本大震災3.11を契機に、新たな日本復興・人間復興を担う日米協働型のグローバル人材育成プログラムの構想が練られている。昨年より一足先にスタートした新咸臨丸プロジェクトと共に、日米協働教育プログラム構想の先駆けとなる標記セミナーが、国際公共政策研究科（OSIPP）を主会場とし、当センターとはTV会議方式で結んで実施された。当センター側では、北加ジャパソサエティ理事長松浦功氏、同President Dana Lewis氏と、当センター長が参加し、カリフォルニア州・SF市・在SF日本国総領事館・ジャパソサエティはじめ、サンフランシスコの友人たちの、日本の今回の甚大な被災に対する熱い支援状況や日本に寄せる暖かい思いが伝えられた。大阪主会場側は星野研究科長をホストとして、被災地で「トモダチ作戦」の実施に携わった関係者らから具体的な講演があり、最後にOSIPPの博士前期課程1年生で今回宮城復興ボランティアに参加した松浦彩さんから、学生として何ができるかと悩みながら参加して得た貴重な体験の紹介があった。

これらに基づき、復興に向けて日米双方向での活発な議論・情報交換がなされ、大学教育で今後目指すべきグローバル人材育成への展望が語り合われた。

国立交通大学

National Chiao Tung University



国立交通大学（國立交通大學：National Chiao Tung University, NCTU）は、台湾のハイテク IT 産業や研究所が集中する新竹市にメインキャンパスを置く国立総合大学の名門校です。創立の原点は 1896 年（清光緒二十二年）に上海で創立された南洋公学に遡り、その後の 20 世紀前半の中国激動の歴史の中で閉鎖と分割を経て、1958 年中華民国新竹市において復興されました。中国国内には同じルーツを持つ上海交通大学、北京交通大学、西安交通大学、西南交通大学（四川省成都）があり、“交通”大学どうしの堅いネットワークを持っています。

校章の歯車の中に見える E, S, A の 3 文字は、それぞれ Engineering（工学）、Applied Science（応用科学）、Administrative Science（管理科学）を代表しています。このロゴマークが象徴するように、工学系の諸分野を中心とする理工系で世界のトップクラスにありますが、人文社会学院や客家文化学院などの社会文化系も充実しています。現在、国立交通大学を構成している学院（College、学部）は以下の 9 分野です。

- 電機学院 Electrical & Computer Engineering
- 資訊学院 Computer Science
- 工学院 Engineering
- 理学院 Science
- 生物科技学院 Biological Science & Technology



- 管理学院 Management
- 人文社会学院 Humanities & Social Science
- 客家文化学院 Hakka Studies
- 光電学院 Photonics

本学とは、2009 年 2 月に本学理学研究科及び理学部と同大学の理学院が最初の部局間協定を結び、2010 年 6 月には本学言語文化研究科と同大学の客家文化学院が 2 つ目の協定を結びました。こうして理系と文系双方の交流の土台が築かれたことを契機にして、2011 年 3 月に大学間協定を締結するに至りました。これで本学は、台湾を代表するトップ 4 大学（国立台湾大学、国立清華大学、国立交通大学、国立成功大学）すべてと大学間交流協定を締結したことになります。

新竹市内には光復メインキャンパス、博愛キャンパスがあり、他に台北、台南、竹北にも別キャンパスがあります。特に客家文化学院のメインビルは、中国福建省にある客家土楼（円形の建築物）を模したデザインで異彩を放っています。

（コンタクトパーソン・古川裕
言語文化研究科・教授）



編集後記

朝はすっかり涼しくなり、木々も色づき始め、これから秋のイベントも本格化いたします。

11 月からは「まちかね祭」のほか、震災の影響により延期されていた「ホームカミングデー」が開催されます。また、12 月には「卒業生の集い」が東京で開催されます。

最近の大阪大学について広く皆さんに知っていただける機会となることでしょう。

（柿木）



昨年度の「卒業生の集い」

大阪大学男声合唱団

合唱男道



突然ですが、みなさんは合唱と聞いてどのようなものを想像しますか？多くの方は女声と男声で演奏する混声合唱を想像するのではないのでしょうか。私たち大阪大学男声合唱団は、その名の通り男声合唱という男声のみで演奏を行っている団体です。男声合唱は力強く迫力があるということが大きな特徴です。より近い声質が織り成すハーモニーは混声合唱とは違った良さがあります。また、響き渡る低音も印象深いものとなるでしょう。

このような男声合唱を行っている私たちですが、年に2回大きな演奏会を行っており、団員は演奏会の成功に向けて日々練習をしています。一つは夏に他の大学の合唱団と合同で行うジョイントコンサート。今年は関西大学グリークラブと合同で行いました。もう一つは、冬に大阪大学男声合唱団だけで行う定期演奏会。こちらは来年2012年1月29日(日)にメイシアターにて行う予定で、詳細はホームページを随時更新していきます。合唱はよく知らないという方でも楽しめるようにミュージカルも交えたステージ構成となっています。ご来場いただいたお客様に満足してい



ただけるように全力を尽くしておりますので、少しでも興味を持っていただけましたら、ぜひ足をお運びください。会場で団員一同お待ちしております。



運営委員長 **青田直大**(基4回生)

<コメント>

大阪大学男声合唱団は関西でも屈指の人数を誇る男声合唱団です。男声ならではの重厚なハーモニーをあなたも一緒に奏でてみませんか。



練習場所：主に共通教育棟C棟、文法経棟
学外の施設を使うときもあります
練習日時：月曜、水曜：17時10分～19時40分
土曜：9時50分～12時20分
団員数：84人
連絡先：メールアドレス：aobure@s202.xrea.com
ホームページ：http://aobure.s202.xrea.com/

トピックス

国際化拠点整備事業(大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業) 「阪神地区大学国際化ネットワーク(通称、阪神ネット)の取組について」

2008年に政府が打ち出した「留学生30万人計画」を具体化していく事業の一つであったグローバル30は、先に実施された行政刷新会議事業仕分けの評価を受け、取組むべき内容を見直し今年度から「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」とその名称を変更して新たにスタートいたしました。

大阪大学は、事業の骨子となる英語による授業コースの運営、事業採択外大学とのネットワーク形成および産業界との連携を視野に入れ、まず、近隣大学との連携を深めるべく去る7月27日(水)に大阪大学会館において、大阪大学、神戸大学、関西大学、関西学院大学の四大学学長出席の下にネットワーク形成に関する協定書の調印式を執り行いました。

さらに、この四大学ネットワークの具体的な事業の一環として、7月30日(土)にタイのバンコク市内に会場を借り、本学バンコク教育研究センターの支援を受け四大学合同留学フェアを開催しました。当日は、各大学の概要説明、各大学から参加の教員による模擬講義、大学別の個別相談会を行い、日本留学に関心をもつタイの学生、保護者の積極的な参加を得ました。

また、四大学がそれぞれに大学の国際化に積極的に取り組んでいることから、国際関連業務を担当してい

る教職員が抱える課題等について意見交換をする場として、8月3日(水)に第1回の教職員ワークショップを大阪大学において開催し、約50名の参加者が各分科会において積極的な討議を行い、最後に各分科会報告を元にした総括が行われました。

現在、この阪神ネットでは四大学の実務担当者による実務者会議が設けられており、これまで4回の会合を重ねてきました。そこでは、7月、8月に実施した事業の今後の継続と新たな事業展開について検討をしているところであり、特に産業界との連携に向けては(財)関西経済連合会との協議に入る予定です。

今年中に行う阪神ネットの事業については、その産業界との連携を元に、日本人学生ならびに留学生が主体的にプログラムを企画し実施に移す「学生グローバルコンピテンスワークショップ」を12月10日(土)に開催することを計画しています。

四大学が個性を発揮しつつ協力しながらキャンパスの国際化を図るべく形成した「阪神地区大学国際化ネットワーク」がより実りあるものに、そして将来的には、この取組みに賛同する大学が増えていくことが期待されています。

(国際交流オフィス)



調印式



四大学合同留学フェア



教職員ワークショップ

阪大 NOW No.127 2011 10月号 2011年10月20日発行

編集 大阪大学広報・社会学連携室
発行 大阪大学広報・社会学連携オフィス広報・社会学連携事務室 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1
TEL: 06 (6879) 7017 FAX: 06 (6879) 7156
ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp/>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせにつきましては、下記までお寄せ下さい。
E-mail: ki-kousyagaku-kouhou@office.osaka-u.ac.jp